

第5章. 水道事業の将来像

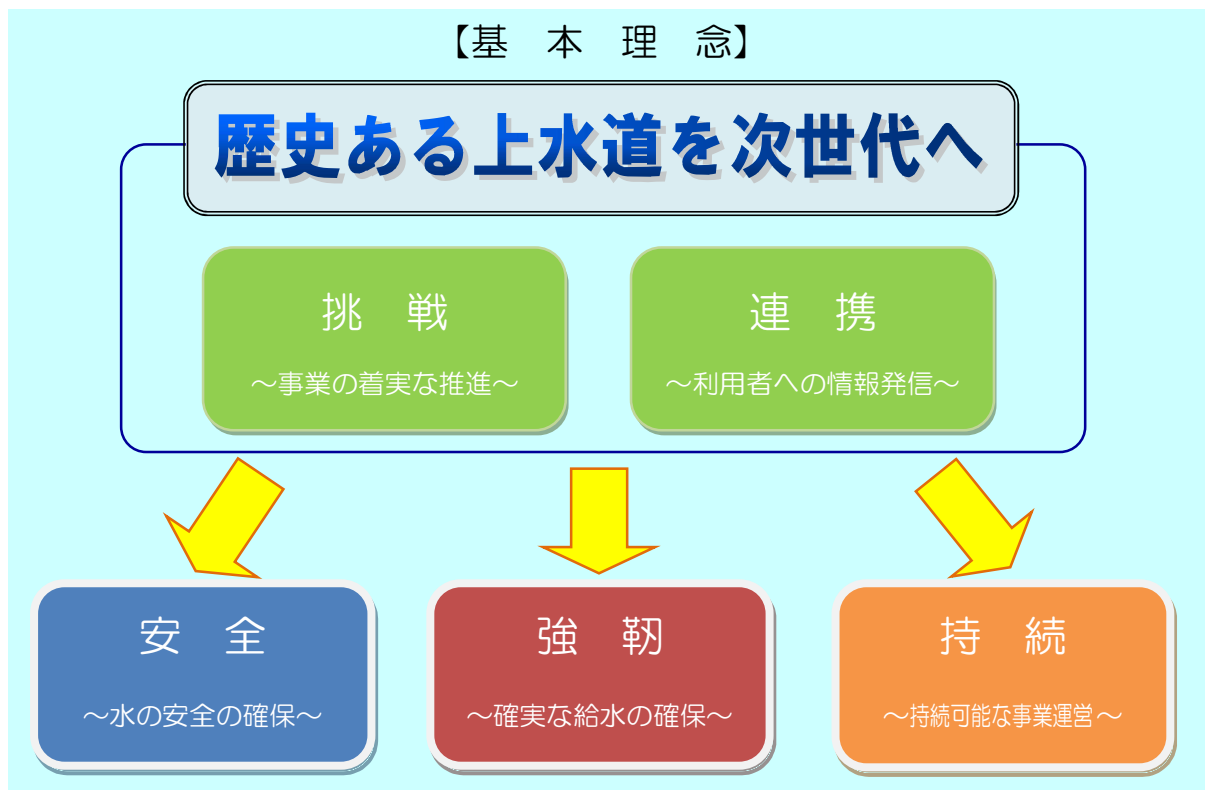
1. 基本理念

給水人口の減少や節水機器の普及などにより、水需要の減少傾向が続くことが予想されます。その一方で、施設の老朽化対策や耐震化に向けた事業を行う必要があり、今後、費用の増加が見込まれています。

水道事業は、事業環境が厳しくなる中においても、生活に欠かすことのできないライフラインであり、安全で良質な水道水を確実に供給し続けていかなければなりません。

本水道ビジョンにおいては、ライフラインとしての使命を果たしながら、公共性と経済性を両立することで持続可能な事業の運営を目指し、引き続き「歴史ある上水道を次世代へ」を基本理念とします。

また、基本理念における行動指針を「挑戦」と「連携」とし、3つの基本方針をたて、持続可能な水道事業の運営を目指します。



2. 目標期間

目標期間は、今後10年間とします。

目標期間：平成29年度～平成38年度